

コスト低減を目指した水稻移植機実演会を開催（世羅町）

【平成 28 年 5 月 31 日掲載】

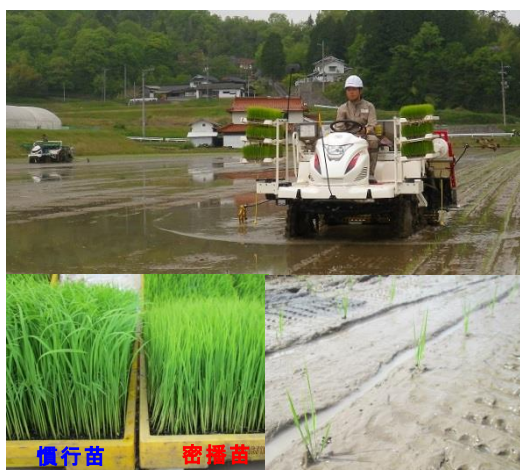
平成 28 年 5 月 7 日、世羅町の（農）さわやか田打（岡田以得（おかだいとく）組合長、組合員 58 名）の圃場（約 1ha）で、水稻のコスト低減を目指した「密播－高精度移植機による苗箱削減技術」の実証を行い、集落法人や関係機関等約 20 名が参加しました。



【高精度移植機の説明を受ける参加者】

この技術は、通常の約 2 倍量に相当する 300g の乾籾を苗箱に播種した密播苗を、ヤンマー株式会社が開発した高精度移植機で移植することにより、10a 当たりの苗箱数を従来の 1/2～1/3 に削減します。この技術は既に県内でも広く普及している疎植栽培と異なり、坪（3.3 m²）あたり 50～60 株の栽植密度でも苗箱数を従来の半分以上に減らせます。

当日は、ヤンマーアグリジャパン株式会社の協力を得て、密播苗を坪あたり 50 株で移植した結果、10a 当たりの苗箱数は 8.3 箱と当初目標の 8 箱をやや上回ったものの、慣行の 5 割まで苗箱数を減らすことができました。また、同法人が所有する既存の田植え機で 220g 播きの苗の移植したところ、高精度移植機に比べ移植精度はやや劣るものの、慣行の 6 割以下に苗箱数を削減することができました。密播苗移植は慣行に比べてやや欠株、浮き苗が多いなど、課題は残りますが、育苗コスト低減と省力化に向け、期待される技術であると確認されました。



【実演機による田植え作業の様子】

法人関係者からは、「育苗に係る労力が半減し、利用可能な技術として期待される。収量・品質面で慣行と同等ならば、次年度での取組みを検討したい。」との感想が聞かれました。東部農業技術指導所では、水稻生産コスト低減に向けた技術の選択肢として、収量・品質を含めた本技術の普及性・有効性について、今後検証することとしています。